

オブサン古墳(山鹿市)

前方に墳丘が見える/「オブサン」は、「産(うぶ)さん」が訛ったもので、安産の神様として古くから地域の人たちに信仰されているという

[video](#)



これがオブサン古墳/6世紀後半築造の円墳

[video](#)



墳丘の周囲には馬蹄形の濠が巡っている/正面に横穴式石室が開口している/南側から見たところ

[video](#)



手前の前庭部は石室入口部の左右に取り付けられた南に延びる突堤によって周溝と区分されている



その突堤を左手から見たところ



少し退いて見たところ

[video](#)



右手から見たところ



そこで、右手に墳丘の後ろを見たところ

 video



さて、横穴式石室の内部を見てみよう/ここは羨道/前方に見える門は前室の手前にある前門



前庭～羨道～前室～玄室からなる複室構造

オブサン古墳 石室平面図

- 凡 例
- ① 前庭 (古墳入口前の広場)
 - ② 羨道 (古墳の外部から石室に通じる道)
 - ③ 前室 (入口側にある室)
 - ④ 玄室 (古墳の主体となる屍体を安置する室)
 - 5. 羨門 (前室や玄室の入口)
 - 6. 框石 (羨門や玄門の床に敷いた敷居石)
 - 7. 袖石 (羨門や玄門の両脇にある石)
 - 8. 屍床 (屍体を収める所)
 - 9. 通路 (玄室や前室の中央部を貫く道)
 - 10. 仕切り石 (用途を区切る境の石)
 - 11. 石屋形 (玄室の奥屍床が家形に造られたもの)



前門の向こうは前室で、その向こうの玄門(金属製の門にて閉鎖されている)の奥が玄室

 video



この中が玄室



正面が石屋形/壁面や仕切り石には赤色顔料で連続三角文などが描かれているそうだが...



傍に説明板と展示資料があった



1 古墳の概要

この古墳は、装飾古墳として著名なチブサ所にある。

オブサン（産さん）古墳の名称も、チブサものらしく、昔から安産の神様として信仰さ

墳丘は、復元前は直径12m、高さ4mの残直径22m、高さ5mの周囲に馬蹄形状の周溝

墳丘内には、南に開口する横穴式石室があり付けられ、前庭部（儀式の場と思われる）は

石室内の玄室には、奥壁に沿って石屋形がであった。装飾文様は、玄室の左仕切り石に左寄りに小形の盾または靱が朱で描かれてい

遺物は装身具、武具類、日用雑器等が石室後期と推定される。

ン古墳（国指定史跡）の西北方向約200mの

ン古墳（乳の神様）に関連づけて命名されたれてきた。

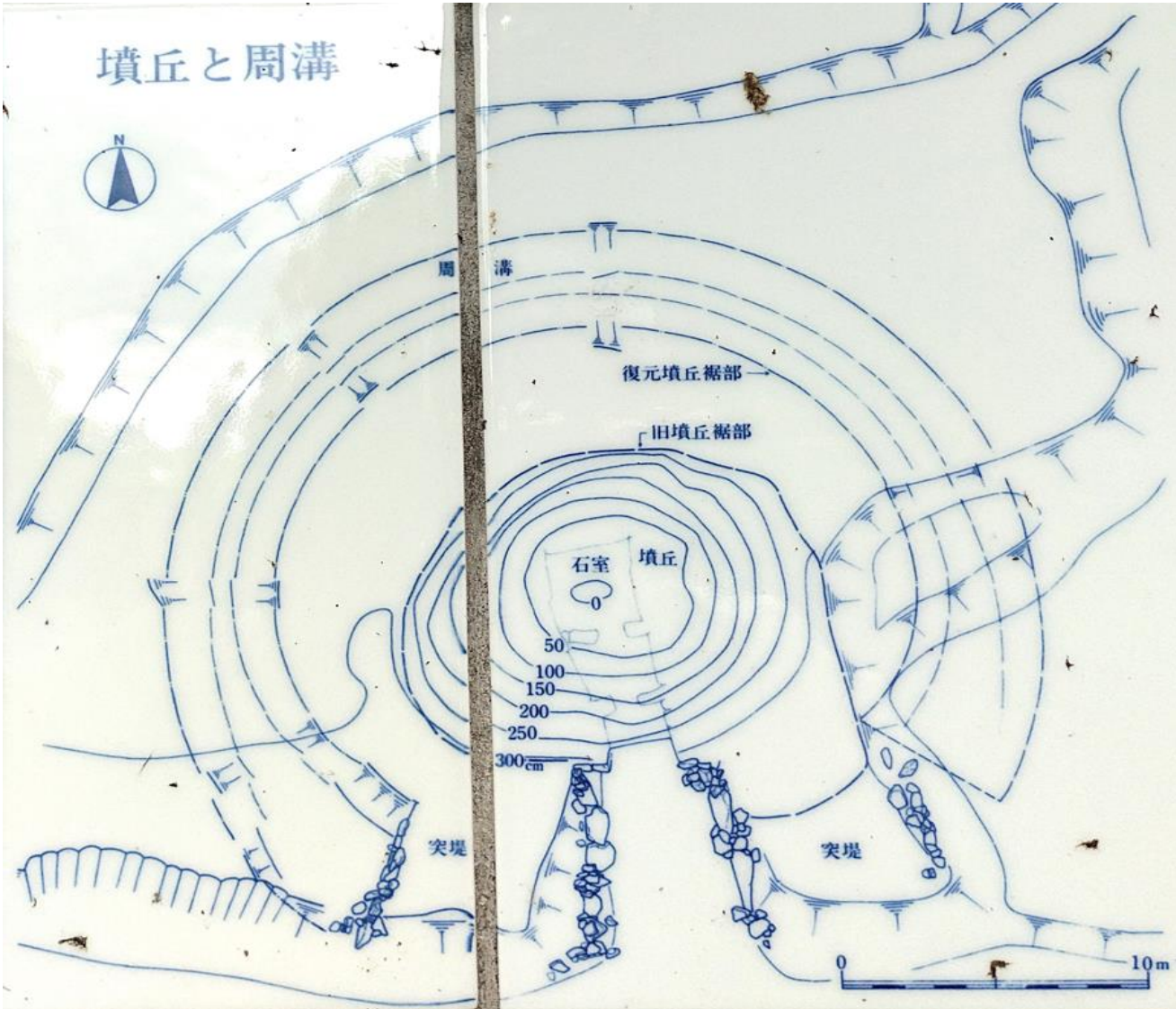
丘となっていたが、調査の結果、築造時は、を巡らす円墳であることがわかった。

り、南に延びる二本の突堤が入口部左右に取周溝から区分されている。

設けられていたが、破壊され痕跡が残るのみ朱による連続三角文が、また同奥壁の中央部る。

の内外より出土した。築造時期は、古墳時代

墳丘と周溝



4 石室の構造

石室は、地元産の巨石をもって築造され、ある。

玄室は、やや長方形で奥壁に沿って石屋形直径10cm前後の平たい敷石がある。

前室は、主軸方向に短い長方形で、参道部

玄室と前室、前室と羨道は、左・右両袖石閉塞石（蓋石）がある。

羨道部の外は、外に向ってラッパ状に開く積まれている。この部分は、儀式の場とも考

石室全体は、南に傾斜する面に半地下式に白粘土により目張りされている。

なお、玄室の石屋形および左右の屍床の仕後補したものである。

玄室奥壁から前庭部末端まで約15mの長さで

、その手前の左右に屍床が設けられ、床には

以外は玄室と同様、左右に敷石がある。

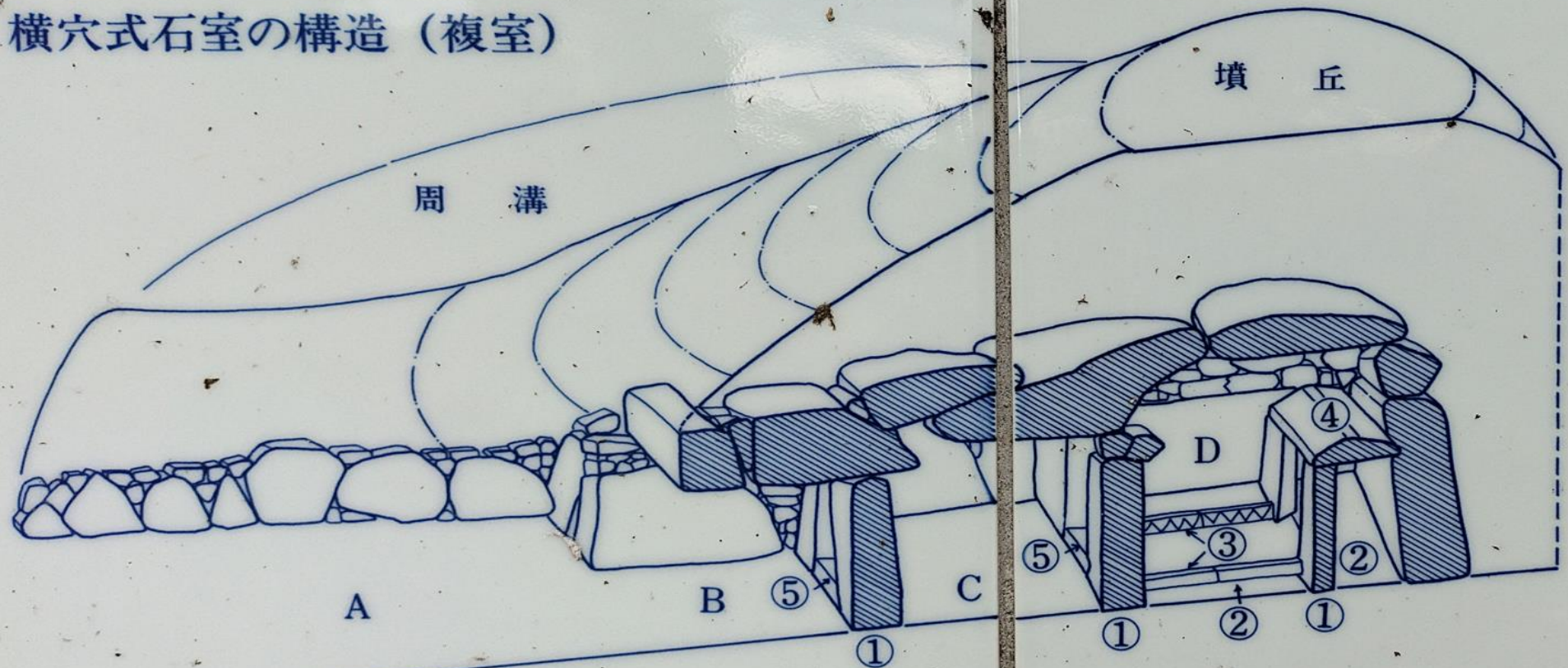
と框石によって区分され、框石部には、各々

前庭部となっており、その両側には、腰石がえられる。

掘り込んで設けられており、各石材の間隙は、

切り石は、失われていたため、整備時に復元

横穴式石室の構造（複室）



A 前庭 B 羨道 C 前室 D 玄室

① 袖石 ② 屍床 ③ 仕切り石 ④ 石屋形 ⑤ 框石

5 装飾文様

装飾古墳は、目鑑橋^{めがねばし}とともに、熊本県が全現在、県下の装飾文様を持つ古墳の数は、1

九州の装飾古墳の内・外壁や石棺に描かれ輪状文^{りんじょうもん}といった幾何学文様と、靱^{かき}、盾^{たて}、刀子^{とうす}せる形象的文様に大別される。また、装飾古浮き彫りによるものと、絵画によるものとが

前者は、熊本県に、後者は、福岡県に主と間地帯に位置する山鹿地方の装飾古墳は、両

浮き彫りによる例が鍋田横穴27号墓であり表例である。この古墳の装飾文様は、玄室左^{ひだり}・なお右仕切石にも同様の文様が描かれてい消失している。また、奥壁中央部左寄りにも

国に誇り得る代表的な文化財である。

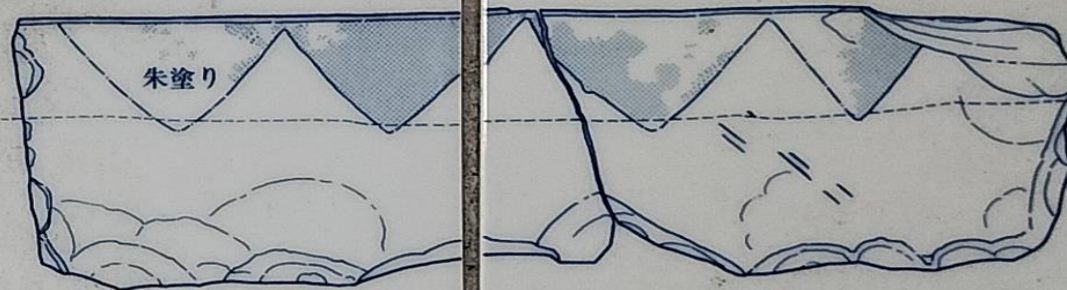
81基（昭和61年3月）となっている。

る装飾文様は、円文、三角文、直弧文、双脚、人物、馬、舟といった当時の生活をしのば墳に施された文様を手法的に見ると、線刻ある。

して分布している。そして、県境をはさむ中者が並立する地帯として特色づけられる。

、チブサン古墳やこの古墳は、絵画による代仕切り石に、朱による連続三角文が描かれる。たと推定されるが、現在は痕跡を残すのみで、小形の盾、または靱が朱で描かれている。

正仕切り石の装飾文様(連続三角文)



出土遺物は玉類や金環、武具、馬具、須恵器など



展示物は、オゾサン古墳出土の
遺物を実物大に模造・復元した
ものです

閉塞石が残っているのは大変珍しい/左手が前室の閉塞石、右手は玄室の閉塞石



石室入口部と閉塞石には、1887年(明治10年)の西南戦争時についた弾痕が残されている/
上記写真の前室の閉塞石には弾痕が見て取れる

7 四たび歴史の舞台に

オブサン古墳は豪族の墓として岩野川流域に古墳時代後期の紀初めにかけて築造されたものである。石材は近接する台地周縁に産する鍋田石(阿蘇泥熔岩)を使用している。

その後、しばらく古墳への一族の追葬が続いたが、やがて古墳時代も終り、この古墳の被葬者名も忘れ去られていった。平安時代も終りを迎えようとする頃、同じく地元岩野川流域の荘園内で勢力を蓄えつつあった有力者が、オブサン古墳の石室に着目し、この地を墓所を選んだ。

埋葬は前室を利用し、儀式用の10数点にものぼる土師質の燈明皿をはじめ、中国から渡来した白磁類、国内産の瓦質碗、中国の銭貨等が遺体とともに納められた。

その後再び、この古墳は忘れ去られ野に埋れた。

江戸時代の中期頃になると、墳丘の裾部を削って周溝が埋め

立てられ、畑地造成が進められた。

しかし石室は安産の神様として、この頃から信仰されたものと思われる。玄室から発見された多数の銅銭が当時のひとびとの信仰を物語っている。

明治10年(1877)西南戦争が勃発し、田原坂(植木町)や鍋田一帯(山鹿市)が戦場となり、高所に位置するこの古墳は政府軍の陣地に利用された。この時、石室内の閉塞石をはじめとする多量の石材等が運び出され、前庭部に掩体(身を守るための防御壁)が設けられ石室内の破壊が進んだ。

昭和61年、この古墳は風土記の丘設置事業として、築造当時姿に復元され、面目を一新した。

このように、この古墳は、四たび歴史の舞台に登場したので

これは熊本県立装飾古墳館で展示されていたオブサン古墳についてのキャプション/左下の図で突堤の様子が良く分る

オブサン古墳

Obusan Tumulus

(国指定史跡 6世紀後半)

(所在地 山鹿市大字城)

Historical site(designated by the State)

Late Kofun period(Latter half of 6th century AD)

The site is located in Yamaga city,Kumamoto Prefecture.

「安産の神様」として地元の信仰を集めています。オブサンは「産サン」から転化したものと言われています。全国でも珍しい突堤付円墳です。

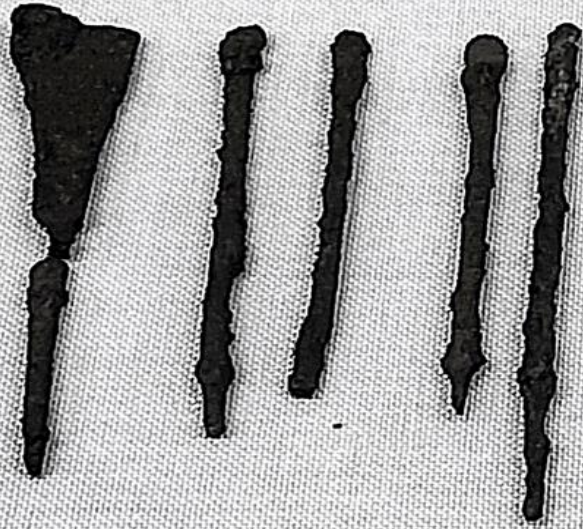
古墳の近くには、石室をふさいでいた閉塞石や出土品のレプリカなどが展示してあります。



突堤・・・石室入口の突き出した部分



同じく、玉類や金環、武具、馬具、須恵器などの出土物も展示されていた(こちらもレプリカ)



てつ 鉄 てく 鋌 ●レプリカ
古墳時代後期
山鹿市 オブサン古墳
Iron Arrowhead
철제 화살촉)
铁镞



かん 環 古墳時代後期
山鹿市 オブサン古墳
Gold Earring
금환
金环

展示品はレプリカです



とう 刀 子 ●レプリカ
古墳時代後期
山鹿市 オブサン古墳
Iron Knife
도자
刀子



展示品はレプリカです

●レプリカ
馬具類 古墳時代後期
山鹿市 オブサン古墳
Harness
마구류
马具类

